

『天のシーソー』 ～五年生 31ページ<この本、読もう>～

安東きみえ 文



シーソーという遊具は知っていますか？長い板の中心に支点があり、板の両側に人が乗って、交互に上がったりがったりして楽しむものです。動きのある遊具なので映画等では見ることがありますが、実際には事故の危険性から最近はあまり見かけなくなりました。表題の『天のシーソー』は、ミオとサノくんの、寂しいような悔しいような恥ずかしいような、でも少し分かり合えたかもしれない気持ちの揺れが、シーソーという動きのある遊具を通して読者に伝わってきます。

二編目の『マチンバ』。子どもの頃引越した時に、家族で近所にご挨拶に回りました。その中で全く手入れされていない庭に埋もれるような、手入れのされていない大きな一軒家にご挨拶に伺いました。中から出てきたのは……マチンバでした。

山に住んでいるヤマンバならぬ、町に住んでいる『マチンバ』。マチンバは一見こわい外見をしています。決して誰かから剥ぎ取った人間の皮を被っているのではなく、本当は子ども好きな優しいおばあさんでした。例えイタズラとはいえ、子ども達が自分を「知っている人」として絡んできてくれるのが嬉しかったのです。それがわかって申し訳ない気持ちが最後にヒナコがチョコレートを「ぜんぶいっぺんに自分の口にほおばった。」という文章で伝わってきます。

『ラッキーデイ』では、留守をしているミオが受けた電話で、狡猾なお大人の誘導でクラス全員の個人情報を教えてしまうくんだり、真に迫って恐ろしいです。馬込小の皆さんがこんな目に合わないことを祈るばかりです。

小学5年生のミオと、ちょっと憎たらしい妹のヒナコの飾らない愛情が垣間見える、六編の短編集です。

- 読むのにかかる時間 一編につき約15分
- 単行本 全編175ページ
- 理論社